

原南陽 医案①

一婦人。下血数十日、数升に及ぶ。地榆・槐花・医王湯・粟米湯・乙字湯の類寸効なし。肛辺腫痛。少しの処をまたぎても流血し、少しも股を開くことならず。虚悸膈に動ず。耳鳴、眩暈、黄胖の如し。鍼砂湯を与えて少快に似たれども下血やまず。盛夏一日、腹痛して手足微冷。夜間予を延く。

其れ下血は常事。腹痛は是れ中暑なり。人参湯を与えて茯苓を加う。次の日、腹痛やむのみにあらず、氣力甚だ快し。二三日を経て下血止む。猶用いる事数日にて全快す。後年又下血す。先ず乙字湯を与えて愈えず。仍って前年にならつて、人参湯加茯苓を与うに速やかに効を得る。